

令和5年度 病害虫発生予察情報

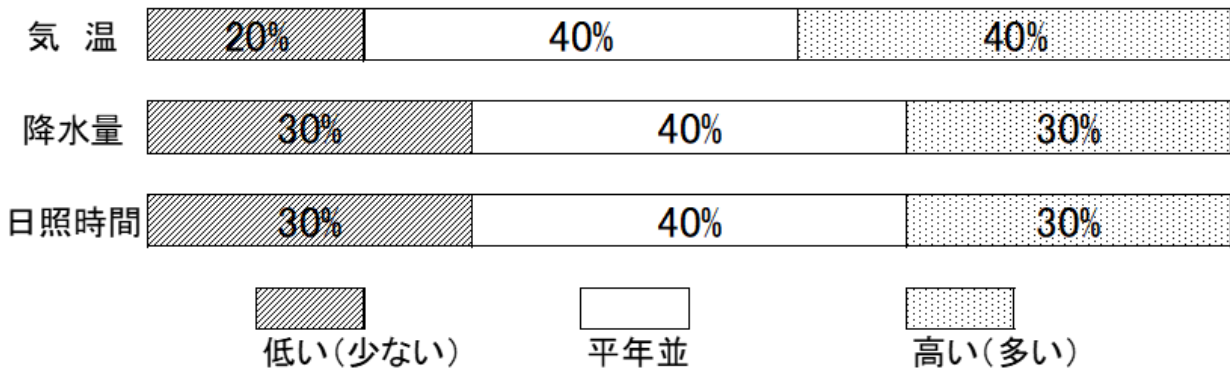
発生予報第8号（10月）

令和5年10月10日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
果樹	カキ	カメムシ類	平年並～やや多い
野菜	キャベツ	黒腐病	少ない
	アブラナ科野菜	菌核病	少ない
		コナガ	平年並
		ハスモンヨトウ	平年並

中国地方1か月予報(10月7日～11月6日・広島地方气象台10月5日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 果樹

1) カキ

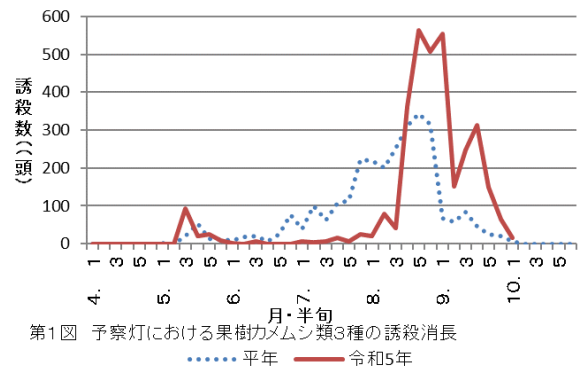
(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 9月第1半旬から10月第1半旬までの予察灯（出雲市）でのカメムシ類の誘殺数は1479頭（平年300.9頭）と発生量が多いが、9月6半旬から誘殺数は減少傾向を示している（図1）。
- ② 9月下旬の巡回調査での累積被害果率は、0.9%（平年1.8%）と平年並みである。
- ③ 10月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。



B. 野菜

1) キャベツ

(1) 黒腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 9月下旬の巡回調査では、発生は確認されておらず（平年発生ほ場率3.1%）、発

生量は平年に比べて少ない。

②ハスモンヨトウ等食葉性害虫の発生量は、平年並みと予想されている。

③10月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 菌核病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

①9月下旬の巡回調査では、発生は確認されておらず（平年発生ほ場率 2.0%）、発生量は平年に比べて少ない。

②10月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) アブラナ科野菜

(1) コナガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①9月下旬の巡回調査では、アブラナ科野菜での本種の発生ほ場率は 20.0%（平年 9.8%）、寄生株率は 2.0%（平年 1.3%）で、発生量は平年並みである。

②10月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①9月下旬の巡回調査では、アブラナ科野菜での本種の発生ほ場率は 30.0%（平年 21.8%）、寄生株率は 3.0%（平年 4.0%）で、発生量は平年並みである。

②7月以降のフェロモントラップによる累積雄成虫誘殺数は、県東部で 1239 頭（平年 1208.9 頭）と平年並み、県西部で 670 頭（平年 1347.2 頭）とやや少ない。

③10月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病虫害防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL : 0853-22-6772

FAX : 0853-24-3342

ホームページアドレス :

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/